

<総評>なんの躊躇いもなく笑えるユーモアというのは貴重だと思う。同じく、素直にうなづける人生の箴言も記憶に永くのこり慰めとなる。口語詩句という詩形の果たすひとつの役割であるように思う。今月はそのようなものも意識して選んでみた。

冬の辞書文字どもネ着だす

---

長谷川柊香 宮城県

——楽しく納得する。

膾炙人口の慣習を持たない俺達の

ひらがなにとしては尖鋭な明朝体だ

---

大嶋 碧月 兵庫県

——民族の習慣文化というものは尊重されるべきものだが残酷なものもある。一見おだやかな平仮名にも民族の歴史的な軋轢があるのかも知れない。

歯ブラシを岸に残して

死に顔と寝顔を隔てる川を泳ぐ

---

常田 瑛子 山口県

——歯ブラシという、最も日常的で身体的なものが、彼岸の冷厳さを際立たせてくれる。

冬構え画鋏落ちなくなるまで刺す

---

神崎まい 群馬県

——雪国でなくとも本能的な冬の風雪への準備が、心の中に用心をよびおこすのかも知れない。

どんどんと

内側から叩かれて

ほんとの気持ち

ようやく気づく

---

全美 神奈川県

——切羽詰まったとき、理論ではない身体自身の呼び声

透明な母親を売る市がある

---

桜庭 紀子 和歌山県

——気が付けば、母親とはもっとも不透明な存在だったと納得。

立冬の明日映りにゆく鏡

---

ムクロジ 群馬県

——自ら映る意志があつてこそ道は開ける。

ほがらかな政敵たちのお弁当

---

牛田 悠貴 東京都

——立場やスタンスがはっきりしていることは朗らかだ。

絶対と言わないことを生業として

わたくしは愛想が良い

---

中井 望賀 東京都

——現代の生業とはそうかも知れない。

べーぐると言うとき

やぎとおそろいの

くちびるを陽に差し出している

---

川上 真央 東京都

——ユーモアとおしゃれの同居。

抱きついて止めればいいのか

躁の友

---

むしまる 大阪府

——力の限り抱きしめるしか、たましいを留める方法がないときがある。

謙虚に生きると、悪魔が囁く

---

入道雲 大阪府

——若者にはこれは悪魔のささやき。

着ぶくれて心臓すこし遠くにある

---

八尾保醒 東京都

——身体と外界の親和性。